

令和3年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

1 学校教育目標

内 容	R3評価
理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	

2 重点目標

内 容	R3評価
学生の学習意欲の向上と授業内容の充実に向けて職員の教育力を向上するとともに、進路決定率100%の成果など本校のPRを積極的に行って出願者の確保に努める。	

3 当該年度の評価項目等

(1) 共通項目(総合農学科、実科・研究科)

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R3評価
			成果と課題	改善策	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	授業改善に向けた取り組み ○ 教授要目に基づいて計画的に授業を実施できたか。 ○ 職員の教育力向上のために研修の機会を設けたか。 県が開催する研修会に参加することができたか。 ○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。 ○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、学習内容や進路指導の参考としたか。			
		新しい知識・技術への対応 ○ スマート農業に関する講義の充実と関連企業との連携強化ができたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や講義を行ったか。 ○ GAPや農場HACCPなど新しい国際規格の知識習得や、SDGsやエコマネジメントなどの農場経営における実践について講義、演習を実施したか。 ○ 「長野県農業を担う人材の教育支援協定」を活用した講義を行うとともに、県内農機メーカーとの連携を検討できたか。 ○ 関係試験場の開発した新技術や新品種について、現物を踏まえた適期での講義・実習が実施できたか。			
		資格試験の受験者数と合格率の向上に向けた取り組み ○ 資格・検定試験の必要性を理解させて受験者数のアップを図るとともに、合格率目標を定め、学生の学習意欲を高められたか。 ○ 合格率向上に向け、受験にあたり繰り返しの事前学習や小テストを実施したか。 ○ 指導者のスキルアップに取り組みしたか。			
	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 計画的な作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、必要な実習ができたか。また、現地体験実習に、必要な基礎的知識、技術を習得させたか。 ○ 圃場管理運営の打ち合わせに基づいて各専攻とも適期には圃場管理ができたか。			
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	○ 学生の進路の意向を開き取り、その情報を職員間で共有できたか。 ○ 1年生は11月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。 ○ 2年生は12月末を目途に全員の就農及び就職先等決定するよう指導できたか。 ○ 雇用就農に向け法人説明会への参加を促すなど法人との接点を多くし理解を深める指導ができたか。 ○ 進路・就農指導等に関し、関係機関とも連携して対応できたか。 ○ 関係機関と連携し、学生の円滑な就農支援や卒業後のフォローアップに取り組みしたか。			
生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	○ 学年担当者会議を定期的に行って教授間の情報共有を行い、全員で指導する体制ができたか。 ○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて社会人としての意識を醸成する指導ができたか。			
	自他の生命・人権を尊重する精神を養い、男女が共に支えあう豊かな心を育成する	○ 寮生活を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 各コース間および学年間の交流が図られたか。 ○ 各学科ごとの環境に対応した指導ができたか。			
学校運営	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	農業機械の充実 ○ 農場実習等の農作業に必要な機械と設備の修繕や更新は計画的に行っているか。 ○ 圃場管理に支障が出ないよう、十分な準備と技能の伝承を進められたか。 ○ 導入したスマート農業機器と設備の効率的利用ができたか。			
		機械の適正な管理 ○ 農業機械、施設及び機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 適切な操作方法を習得させたうえで学生に機械利用させたか。 ○ 修繕可能な機械類を見極め備品の有効活用がされたか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。			
	学校用地や施設の適切な維持管理	○ GGAP認証取得団体にふさわしい整理整頓がなされているか。 ○ 実習棟、機械庫等は、定期整備日の設定などにより整理整頓がなされているか。 ○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や校舎等施設の維持管理が適切に行われたか。			
	学生募集のPRを更に充実する	○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ サンデー見学会、オープンキャンパスおよび体験学習等を充実し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか。 ○ 農業高校との一層の連携を推進するために、「農大・農高の連携会議」を開催し、農高生の体験入学等を実施できたか。			

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R3評価
			成果と課題	改善策	
	ホームページの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。 ○ 広報委員会を定期的に開催するとともに、HPのあり方が検討されたか。 			
	予算執行の適正化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理し調整できたか。 			

(2) 実践経営者コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R3評価
			成果と課題	改善策	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生における各論実習の充実と目的意識を持った農業経営体験実習ができたか。 ○ 希望する就農形態に合わせて模擬経営と長期農業経営体実習を適正に選択するとともに、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。 			
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農支援プログラムに基づき、早めに関係機関や研修先農家と連絡を取りあい就農形態に応じたきめ細かな個別就農支援ができたか。 ○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。 ○ 現役農業経営者にアフターフォローを依頼する等、卒業生のフォローアップが充実できたか。 			
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農に向けた相談会、コース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等によりコースの内容等をアピールし、効果的な募集活動ができたか。 ○ 独自の募集チラシを作成して関係機関や団体に配布し、募集の周知ができたか。 ○ 市町村やJA等の関係機関、団体と連携を密にし、人材の掘り起こしができたか。 ○ 専用ブログやメディア等様々なPR媒体の活用等により、授業内容や卒業生の営農状況を紹介するなど、効果的なPRができたか。 ○ 3回の入試を行い、令和4年度出願者の確保に努めたか。 			

(3) 農業経営コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R3評価
			成果と課題	改善策	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を充実するとともに、労働時間の考察が取り入れられたか。 ○ 1年生によるプロジェクト巡回は、事前指導により質疑応答など活発に実施できたか。 ○ 1年生は全ての専攻でプロジェクトが実施されたか。 ○ マーケティング手法の習得を目的として、のうたぐらと農大祭が実施できたか。また、農大祭開催時に、1、2年生間で協力できたか。 			
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。 ○ 就農支援プログラム等に基づく様々な就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。 ○ 卒業生を就農地の現地機関に確実につなげることができたか。 			
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3回の入試を行い令和4年度出願者の確保ができたか。 			